2023年
中野ハイティーン会議
報告書

中野区　子ども教育部　育成活動推進課
認定NPO法人カタリバ

中野区 NAKANO CITY × KATARiBA

目次

①中野ハイティーン会議とは

理念・概要…… P.2
昨年度までの実績…… P.4
今年度の参加者概要…… P.5
今年度のテーマ…… P.6
各回実施内容…… P.8

②チャレンジ詳報

音楽で地域交流 「Grandioso」……P.15
環境意識を啓発する 「エンバメ」……P.20
学校・学年を超えて校則を考える「Enjoy 楽しもう はっぴぃ☺」…… P.25
中高生の居場所づくり……P.30
地域の関係づくり 「おとなりつながり」……P.35
地域の魅力発信「中野地理院」……P.40

③寄せられた感想

参加者アンケート……P.45
参加者ワークシート……P.46
観覧者アンケート……P.47

①中野ハイティーン会議とは

理念・概要

　中野ハイティーン会議とは、中野区在住または在学の中高生が学校や学年を超えて集まり、中野区をフィールドとして自由に活動して意見表明に繋げていくプログラムです。

　メンバーは、自分自身の興味・関心を原点に、取り組みたい「チャレンジ」を自分で決めていきます。フィールドワークやインタビューを経てテーマを深め、自分たちにしかできない「アクション」を実践し、感じたことや考えた「アイデア」を区長に対して報告します。

2023年度で21回目の開催となり、現在は「中野区子どもの権利に関する条例」において定められる「子ども会議」の役割を果たしています。

（「中野区子どもの権利に関する条例」より）

第3章　子どもにやさしいまちづくりの推進

（ 子どもの意見等の表明および参加 ）

第13条　区は、子どもが自分の意見等を表明し、参加する機会を確保するために必要な制度を設けるよう努めるものとします。
2 区、区民、育ち学ぶ施設および団体は、子どもの意見等の表明と参加をうながすため、子どもがその意味や方法について学び、必要な情報を得ることができるよう努めるものとします。

（ 子ども会議 ）

第14条　区長は、子どもの意見等を求めるための会議（ 以下「子ども会議」といいます。） を開きます。

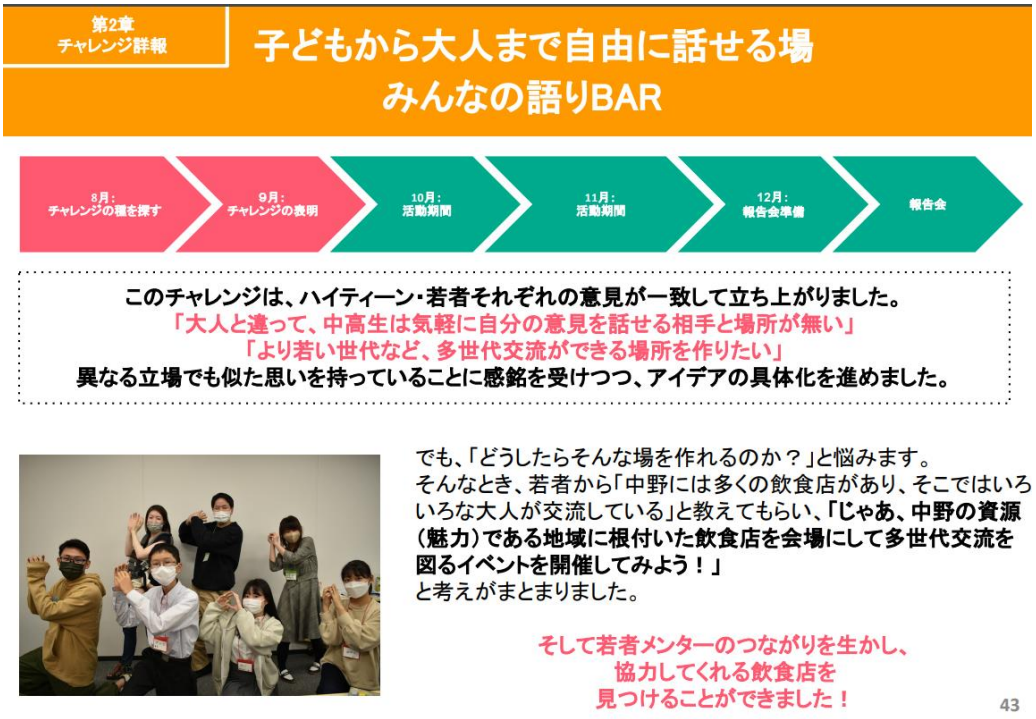
2 区長は、子どもに関する区の計画その他区長が必要と認めることについて、子ども会議に参加する子どもの意見等を求めるものとします。
3 区長は、子ども会議に多様な背景を持つ子どもの意見が反映されるよう努めるものとします。
4 子ども会議は、参加する子どもの自主性と自発性を尊重して運営されるものとします。
5 区長は、子ども会議への子どもの参加がうながされ、子ども会議が順調に運営されるよう必要な支援を行うものとします。
6 子ども会議に参加する子どもは、第2 項に規定することや自分が必要と認めることについて、その意見等をまとめ、区長に提出することができます。
7 前項の規定により提出された意見等について、区長は、これを尊重するよう努めるものとします。

昨年度までの実績

2021年度までは中野区直営事業として実施を続け、「ジェンダー」「AI」「自分らしさ」などをテーマに、中高生が生活の中で感じる疑問について調査・発表してきました。2022年度に認定NPO法人カタリバが運営事業者として参画。学校や学年を超えた話し合い・区長への報告といった要素はそのままに、「自分で行動してみる」ことを重視したプログラムとしてリニューアルしました。

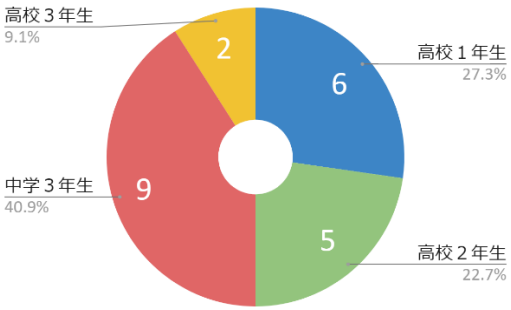
2022年度は「理想の中野」をテーマに、約20名の参加者たちが自由な発想でチャレンジを実施しました。

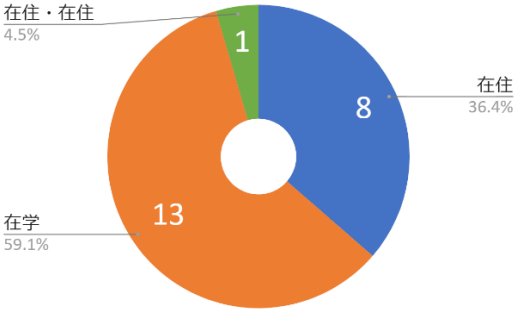
【2022年度報告書より抜粋】



今年度の参加者概要

　今年度は、区内在住・在学の中学生～高校生計22名が参加し、中学3年生が最も多く9名となりました。
　また、全体のうち7名が区内在住、13名が区内在学、1名が在住かつ在学でした。





広報用のチラシ、ポスターには昨年度の参加者がモデルとして参加してくれました！

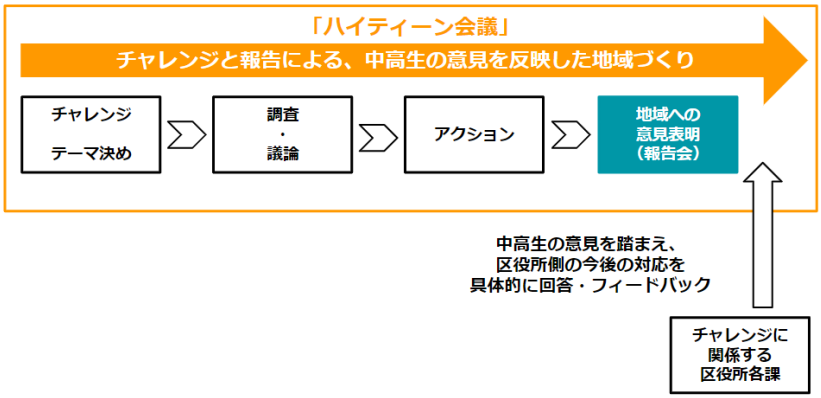
今年度のテーマ

意見表明の場としての「チャレンジ」

　中野ハイティーン会議では、気になるテーマについて話し合ったり調べたりするだけではなく、中高生自身がフィールドワーク・インタビュー・地域イベントの企画運営・コンテンツ制作などのアクションを実践することを重視しています。

　学校や学年の異なる仲間と出会い、自分たちのやりたいことを議論し実行に移すことで、社会に対する視野を広げ、また「自分の力で地域は変えていける」と実感できるプログラムを目指しています。

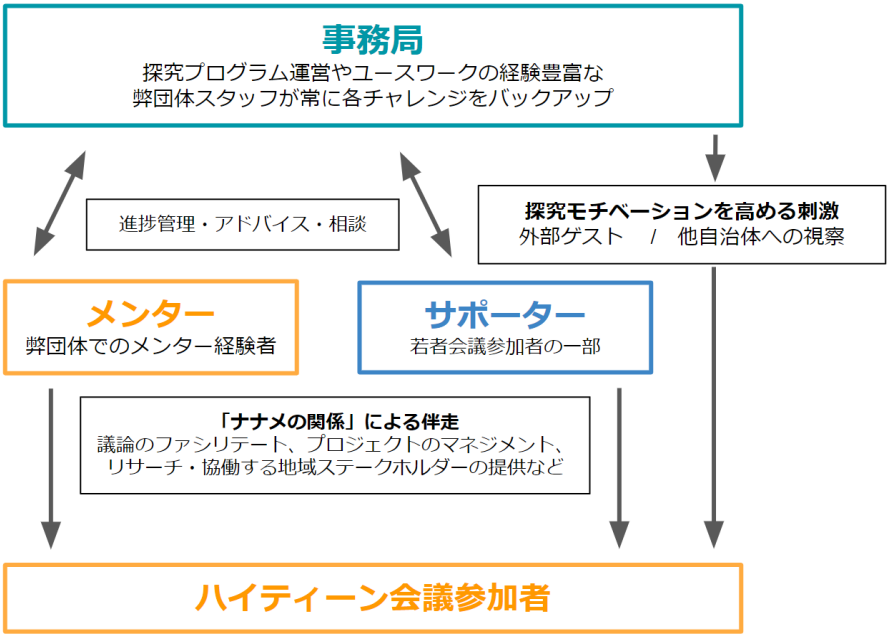
　2023年度は、「中野区子どもの権利に関する条例」内の「子ども会議」機能を強化するため、「意見表明」の場であることに重点を置きました。



　ハイティーン会議では、興味・関心が近い中高生5人前後でチームを作り、8月～12月の会議期間内に「チャレンジ」と呼ばれるプロジェクト活動を行います。

　チャレンジの内容は、自分がやってみたいことなら何でも自由。各チャレンジのメンバーは、毎月のハイティーン会議で活動の方向性や詳細を話し合うほか、「LINEオープンチャット」を使って日常的にやり取りを行います。必要に応じてオンラインでのミーティングをしたり、自主的に集まってアクションを進めることも。

ハイティーン会議メンバーを支える「メンター」「サポーター」



ハイティーン会議メンバーのチャレンジ活動を伴走する専属のメンターを配置し、より一人ひとりに寄り添い、アイデアを引き出すサポートを実施しました。さらに、「若者会議」参加者の活動の一環として、ハイティーン会議のチャレンジを支える「サポーター」というポジションも用意。地域の若者だからこそ持つノウハウや人脈を生かして、中高生のチャレンジを発展させました。

メンバーだけでなく、関わる大人にとっても学びの時間となりました。

中高生が「何かをやりたい」気持ちを持つには何が必要か？
中高生がやりたいことを実現しやすくなるサポートとは？
中高生から出たアイデア・意見を、地域はどう受け止めるか？

など多くの問いを、年間を通じて区・事業者・メンター・サポーター・地域関係者一同で意見を交わしながら運営を行いました。

各回実施内容

DAY1　8月20日10:00～13:00
キックオフ・チャレンジ検討

緊張の中、
今年度のメンバーが
ついに
顔を合わせました！

① アイスブレイク

チェキでお互いの写真を撮影し、
自己紹介シートを作成。
自由に歩きながら相手を見つけ、
できるだけ多くの相手と自己紹介する
ゲームを実施しました！

② ゲストトーク

青山鉄兵様/文教大学人間科学部准教授

ゲストには文教大学から青山鉄兵准教授をお招きし、「意見表明って？権利って何？」と考えたり、昨年度参加者との対談タイムも設けました。

③ チャレンジ検討

自己紹介シートも使いながら、「興味のあるカテゴリ」「キーワード」が近かったメンバーで「これから何をしていきたいか」を話し合い、模造紙や付せんを使ってアイデアを膨らませていきます。

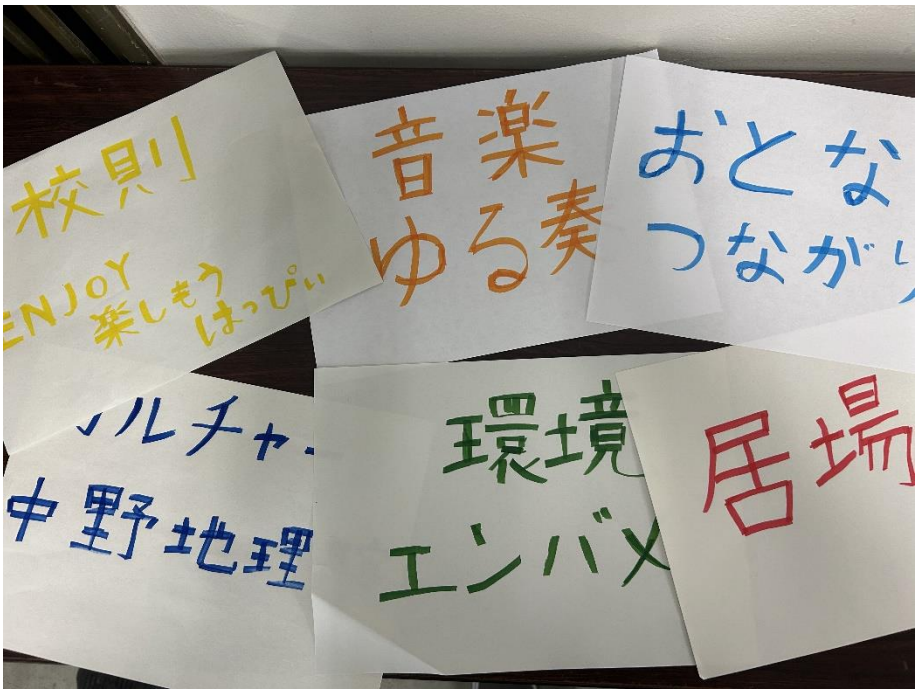
模造紙ワークでは、中野区のイメージを、良いところも悪いところも自由に出し合いました。

「年配の方も若い人もいるんだし、もっと多世代で交流したい」

「校則について感じていることは？」

など、今後のチャレンジに繋がるアイデアがたくさん出ました。

最終的に出そろったチャレンジテーマは、
「音楽」「環境」「校則」「居場所」「地域交流」「地域の魅力発信」の6つ。



それぞれのチャレンジの活動内容は、第2章で詳しくお伝えします。

DAY2　9月17日10:00～13:00

フィールドワーク

① チャレンジ会議

まずはチャレンジごとに、
前回考えた内容をおさらい。
アクション実現のために、
フィールドワークをどう生かすか、
事前にイメージを膨らませました。

② フィールドワーク

各チャレンジが
中野区の色々なスポットに
フィールドワーク・インタビュー
を行いました！

	チャレンジ	訪問先
①	音楽	ヴァイオリニスト・藤﨑美乃様のスタジオでインタビュー
②	環境	ヌリーズ株式会社様と ミューラルプロジェクトを見学
③	校則	中野駅周辺エリアで 日常にあふれる「ルール」探し
④	居場所	まごころドーナッツ見学・インタビュー
⑤	地域交流	中野氷川神社例大祭の様子を見学
⑥	地域の魅力発信	中野駅周辺の繁華街エリアを散策

DAY3　10月15日10:00～13:00
各チャレンジでアクション準備

この回は、区役所ではなく「みらいステップなかの」で開催しました！

フリータイム
メンバーたちもすっかり打ち解けてきたところで、ハイティーン会議もあっという間に折り返し。
各チャレンジが独自の「アクション」を行うために、会議時間を丸ごと使って、それぞれのアクションについて話し合いを進めました。

ほとんどのチャレンジで、11月がアクションの本番。
「イベントをやるなら、何をいつまでに準備する必要がある？」
「チラシも作ってたくさんの人を巻き込んだほうがいいんじゃない？」
と、話し合い・作業が白熱しました。

DAY4　11月19日14:00～17:00

子どもの権利レクチャー・若者会議交流

① ゲストトーク：子どもの権利レクチャー

相川梓様 /
中野区子どもの権利委員

1か月後に迫った報告会に向けて「10代の意見表明の価値」を改めて学ぶため、
子どもの権利条約や中野区子どもの権利に関する条例の概要、ハイティーン会議が果たす意義についてレクチャーいただきました。

② チャレンジ別活動

イベントを行うチャレンジは実施に向けた打ち合わせをしたり、ものづくりに励むチャレンジは工作などを行いました。

③ 若者会議交流

ハイティーン会議と若者会議のメンバーが一堂に会し、
最終発表に向け、チャレンジの
中間発表を行いました！
メンバーも、自分たちの発表に若者会議メンバーが興味を持ってくれたことに手応えを感じました。

DAY5　12月17日13:00～17:00

報告会～区役所各課からのレスポンス

　いよいよ迎えた12月。区長や教育長、区議、区役所関係各課に対して、中高生がチャレンジごとに5分間のプレゼンテーションを行いました。

① 発表直前準備

数時間後に迫った報告会本番に向けて、
自由参加の直前準備タイムを設けました。
限られた時間の中で、
どのように発表すれば伝わるか、
何度も時間を測りながら練習しました！

② 報告会

報告会は、以下の流れで進行しました。

6チャレンジ 発表	ゲスト： 文教大学人間科学部准教授 青山鉄兵様 **発表（5分）** ①アクション報告　＋　②チャレンジを通して考えた「意見」 **区長対話（4分）** **①チャレンジのGoodポイント** **②区長からの「共感」ポイント** **③より深堀りしてみたい点への質問** など **所管課コメント（4分）** **転換・コメントシート記入（5分）**

　ハイティーンメンバーは4か月のアクションを紹介するとともに、**「自分たちは何を考えたか・学んだか？」「中野区が『もっとどんな地域になってほしい』と感じたか？」**などを発表。

区長は全チャレンジのメンバーと「対話」し、共感したポイントや、より深堀りしてみたい点を伝えるほか、中高生のアイデアを区政に取り入れるための詳細ヒアリングなども行いました。

発表や対話を聞いた観覧の方からは、心のこもった「コメントシート」を記入いただきました。
もちろん、コメントシートはメンバーのもとに届けられました！

③ 振り返り

報告会後には、ワークシートを使って
ハイティーン会議全体を振り返りました。
あっという間の4か月間に思いをはせた後は
事務局からメンバーへ「修了証」の授与も！

メンバーが報告した意見に対しては、改めて区役所各課から、
「何を・いつまでに・どうやって実現できるか？（できないか？）」
をフィードバックいただきました。
こちらの内容は、次章「チャレンジ詳報」でチャレンジごとに紹介します！

チャレンジ詳報

2023年度のハイティーン会議では、6つのチャレンジがアクションを積み重ねてきました。この章では、チャレンジごとの歩みを紹介します。

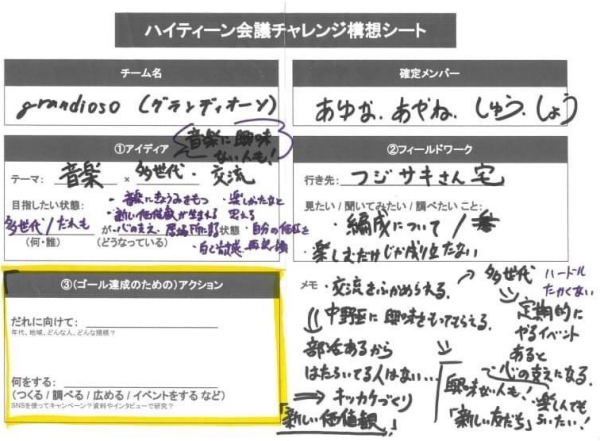
音楽で地域交流 「Grandioso」

メンバー

あゆな(高1)
あやね(高1)
しょう（大学生メンター）
しゅう（社会人サポーター）

チャレンジのきっかけ

学校の吹奏楽部で
活動しているけど、
限られたメンバーとしか
繋がれていない…。



「もっと幅広い層の人たちと音楽を楽しみたい！」

そこで、気軽に立ち寄って参加できる公園での路上演奏イベントを実施することで、多くの人とつながることができるのではないかと考えました。

アクションの内容と結果

9/17	フィールドワーク 藤崎様訪問	ヴァイオリニストとしてご活躍されている藤崎様のご自宅を訪問させていただきました。インタビューだけではなく、一緒にセッションも体験することができました。
10/13	zoom話し合い	どのようなイベントを実施するのか、実施する場所や日時について話し合いました。
10/15	イベント準備	当初は公園でイベントを開催する予定でしたが、実施が難しいということで、産業振興センターでイベントを行うことにしました。また、イベントのタイムテーブルや中身についても話し合いました。
10/28	zoom話し合い	当日使用する楽譜や楽器の選定、集客の準備を進めました。
11/10	zoom話し合い	集客用のパンフレットを作成し、区にある掲示板やSNSで宣伝を行うことにしました。
11/19	イベント準備	産業振興センターに下見へ行き、当日の備品や音響環境をチェックしました。
11/26	ゆる奏	音楽を通して地域でつながりを作るために、産業振興センターで、ゆるく即興セッションを楽しむというイベントを開催しました。

【フィールドワーク・藤崎様訪問】

　中野区在住のヴァイオリニストである、藤崎美乃様のお宅を訪問し、インタビューをしてきました！

　地域でワークショップを開く際のポイントや、藤崎様が地域で関わるようになったきっかけなど、イベントを実施するにあたって参考になることをたくさん聞くことができました。

【ゆる奏】

産業振興センターで、みんなでゆるく即興セッションを楽しむ演奏イベントを開催しました！

参加者が持ち寄った楽器や、環境チャレンジチームが製作した廃材ドラムを使って、YOASOBI「アイドル」や「We Are The World」などを参加者と一緒に演奏し、盛り上がりました。

中学生から乳幼児、親世代まで幅広い層の方に参加していただき、音楽の力で多世代交流ができたことを実感しました。また、多くの参加者から「楽しかった」という温かい声をいただきました！

チャレンジのポイント

「多世代と交流できるイベントに！」

イベントにより多くの方が参加し、交流ができるよう、演奏の「上手さ」ではなく、「ゆるさ」を重視しました。

準備当初は、野外の公園でこのイベントを開催することを考えましたが、近隣への騒音の懸念などから、断念することになりました。

また、参加者募集にも苦戦し、区内の掲示板や区の公式SNSアカウントからの発信で周知を試みました。

集客や場所の確保が簡単ではない中、その都度高校生と区職員でアイデアを出し合いながら、無事にイベントを実施することができました。

報告会での意見表明・関連課からのフィードバック

音楽による交流を実現したこのチャレンジでは、中高生が主体となってイベント会場を確保することの難しさを感じたことも踏まえ、以下のように区長に意見表明しました。

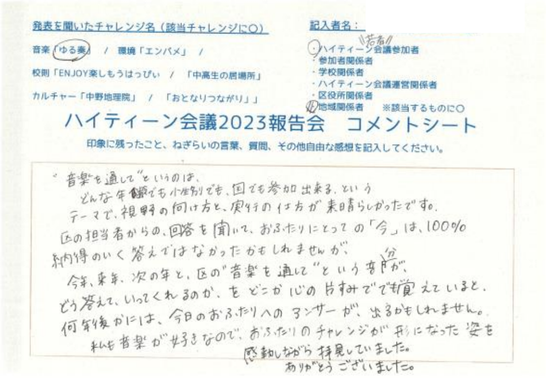
・音楽を通じた多世代交流ができるようなイベントをもっと開催してほしい
・より気軽に、多くの人と交流できるよう、公園での音楽演奏を許可してほしい
・中高生でも公園の占用許可申請をしやすいようにしてほしい

これに対し、関連課から寄せられたフィードバックは以下の通りです。

区民部 文化振興・ 多文化共生 推進課	様々な世代の文化芸術団体が発表できる場である「区民フェスタ」をはじめ、新たに整備される新庁舎１階スペースなどを活用し、区民同士の交流機会を創出していきます。
都市基盤部 公園課	中野区立公園条例では、他人に迷惑を及ぼす行為をすることが制限されています。これは音楽活動そのものを指しているわけではありませんが、音が大きいなど、公園利用者や近隣住民がこれを不快に感じた場合は該当します。 つまり、音が小さかったり、近隣住民の理解が事前に得られていれば、公園で自由に音楽演奏をしても問題はありません。 また、中高生でも公園の占用許可申請は可能ですが、新規イベントは内容を審査する必要があるため、事前にご相談ください。

いただいたコメント

報告会での発表では、多世代交流と音楽というテーマをつなげていた点に、多くのコメントが寄せられていました。また同様に、音楽イベントを開催するハードルの高さや、公園でイベントを実施できなかったことに関する点にも多くのご意見が寄せられました。



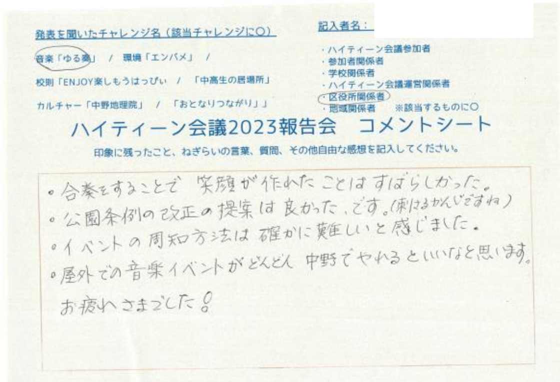
発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴぃ / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」

記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者 ※該当するものに○

ハイティーン会議2023報告会　コメントシート

印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。

"音楽を通して"というのは、どんな年齢でも性別でも、国でも参加出来る、というテーマで、視野の向け方と、実行の仕方が素晴らしかったです。
区の担当者からの、回答を聞いて、おふたりにとっての「今」は、100%納得のいく答えではなかったかもしれませんが、
今年、来年、次の年と、区の"音楽を通して"という部分が、どう答えていってくれるのか、をどこか心の片すみででも覚えていると、何年後かには、今日のおふたりへのアンサーが、出るかもしれません。
私も音楽が好きなので、おふたりのチャレンジが形になった姿を感動しながら拝見していました。
ありがとうございました。



発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴぃ / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」

記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者 ※該当するものに○

ハイティーン会議2023報告会　コメントシート

印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。

・合奏をすることで笑顔が作れたことはすばらしかった。
・公園条例の改正の提案は良かったです。（東はるかんじですね）
・イベントの周知方法は確かに難しいと感じました。
・屋外での音楽イベントがどんどん中野でやれるといいなと思います。
お疲れさまでした！

【以下抜粋】
・セッションを通して、いろいろな人同士がつながれれば良いなと思った
・演奏した曲が多世代交流を意識していて良かったと思う
・自分たちのチャレンジを通して、区の条例の変更を提言していて良かった
・ゆる奏を定期的に続けていたら、知名度も上がって参加者も増えていくと思う
・屋外で実施したほうが、通りがかりの人が参加してくれて、広くつながっていけるのではと思いました

環境意識を啓発するチーム「エンバメ」

メンバー
むらく(高3)
サトレン(中3)
てんゆう（社会人メンター）

チャレンジのきっかけ

「環境問題にもっと興味・関心を持ってほしい！」

　環境というテーマをあえて全面に出さず、みんなで楽しめる音楽イベントを実施することで、多くの人に環境問題について考えてもらうきっかけになるのではないかと考えてアクション内容を詰めていきました。

アクション内容と結果

9/17	フィールドワーク	ヌリーズ株式会社の佐藤社長と一緒に、中野ミューラルプロジェクトを見に行きました。また、佐藤社長との会話を通して、「アップサイクル」と「音楽」をかけ合わせたイベントをやりたいという形になりました。
10/6	zoom話し合い	環境について学んでもらうためのイベント準備を始めました。参加対象者層を子育て世代に絞り、保護者にアップサイクルについて学んでもらう機会となるイベントを実施することに決めました。
10/15	イベント準備	引き続き、イベントの概要について話し合い、「廃材を使った楽器を作り、即興セッションを楽しむ」という方向性になりました。また、当日使用する楽器や集客方法についても話し合いました。
10/23	zoom話し合い	イベント集客用のパンフレットと申し込み用フォームの準備を進めました。
11/19	イベント準備	イベント当日に使用するドラムセットの準備にとりかかりました。当日は、廃材ドラム奏者の松井様にお越しいただき、一緒に廃材でドラムの製作体験をさせていただきました。
11/26	中野こども演奏会	4～8歳の子どもとその保護者を対象に、アップサイクルによる楽器の演奏イベントを実施しました。

【フィールドワーク・佐藤様ヒアリング】

　中野駅周辺のミューラルプロジェクトを見に行きました。当日は、実際にミューラルプロジェクトに携わっている、ヌリーズ株式会社の佐藤政夫社長と一緒に駅前の壁画などを見ることができました。

　佐藤社長は廃棄塗料削減にも取り組んでおり、その中でも塗料のアップサイクルについてたくさんお話を聞かせていただきました。

アップサイクルとは：本来であれば捨てられるはずの廃棄物に、デザインやアイデアといった新たな付加価値を持たせることで、別の新しい製品にアップグレードして生まれ変わらせること。創造的再利用。

【廃材を使ったドラム製作】

廃材ドラム演奏に携わっている松井修司様にお越しいただきました。ペンキの空き缶を用いて、演奏会で使用するドラムを、一緒にDIYをするという貴重な体験をさせていただきました。

【中野こども演奏会】

中野区内のイベントスペース「コミュニティスペースおむすび」にてイベントを実施！当日は2組の親子にご参加いただきました。

製作したドラムを使ってアップサイクルの考え方を説明しつつも、メインは身近なものを使って楽器を作るワークショップ。

ペットボトルや牛乳パックを使って、カスタネットやマラカスを一緒に作り、皆で音を奏でると、参加者からは「楽しかった」「おもしろかった」という声を多くいただきました。

工夫点

「環境というテーマを押し出さずに、イベントを実施！」

イベントを周知させるためのパンフレットにも、「環境」という要素をあえて入れずに、宣伝を行い、結果的に、親子2組(計6人)に参加していただきました。

今回のチャレンジを通して、会場探しや参加者の募集など中高生がイベントを実施することの難しさも感じました。また、環境×音楽のように、単に環境問題だけを扱うのではなく、幅広い切り口からイベントを進めるということは、多くの人に楽しんでもらうポイントの1つであると気づきました。

報告会での意見表明・関連課からのフィードバック

「ゆるく楽しめる環境イベント」に注目したこのチャレンジでは、以下のように区長に意見表明しました。

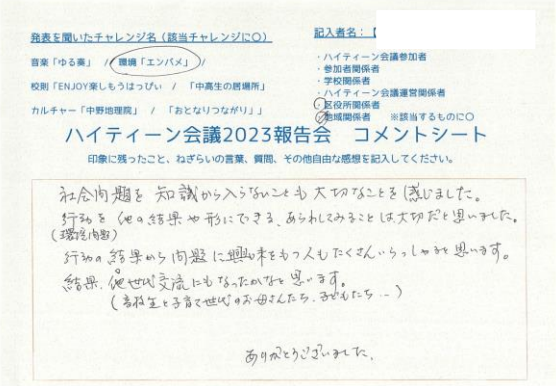
- 環境問題をより多世代の区民に知ってもらうために、参加体験型の楽しめるイベントの実施が必要ではないか
- 「環境」という言葉を押し出さず、「楽しんでいたら結果的に環境に良いことをしている」といったイベントをもっと打ち出してほしい
- 中高生がイベントを開催できるよう、サポートする人等の支援がほしい

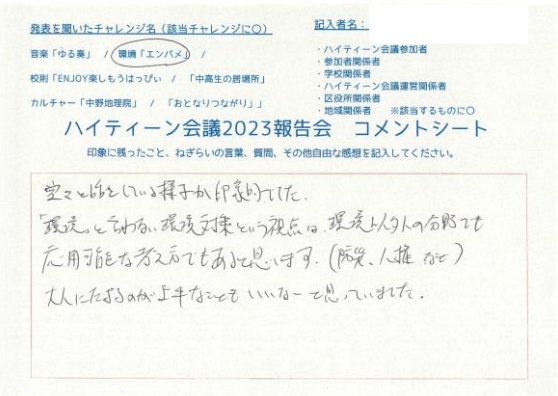
これに対し、関連課から寄せられたフィードバックは以下の通りです。

環境部 環境課	環境課題をより多世代に周知・啓発するため、体験型のイベント「なかのエコフェア」を11月に開催しています。また環境緑化のイベントとして「花と緑の祭典」を年２回開催しています。上記のような多世代が楽しんで体験・経験できるイベントを継続し、工夫しながら開催していきます。
地域支えあい推進部 地域活動推進課	地域住民に向けたさまざまな活動をする団体の多くでは、運営面に中高生等の若い世代の参加も歓迎しています。そういった団体に加わり、双方の思いを共有することで、地域住民に有益な活動（イベント）を開催するスキルをまずは身につけてもらえればと思います。
子ども教育部 育成活動推進課	イベントの実施等の活動を支援していくため、庁内での連絡を強め、情報を共有していきます。活動内容にあった地域団体を紹介するなどネットワーク化も目指していきます。

いただいたコメント

「環境問題」というテーマをあえて表に出し過ぎなかった点に多くコメントが寄せられていました。


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
音楽「ゆる楽」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴい」 / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」
記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者 ※該当するものに○
ハイティーン会議2023報告会　コメントシート
印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。
社会問題を 知識から入らないことも 大切なことを感じました。
行動を 他の結果や形にできる、あらわしてみることは大切だと思いました。
（環境問題）
行動の結果から問題に興味をもつ人もたくさんいらっしゃると思います。
結果、他世代交流にもなったのかなと思います。
（高校生と子育て世代のお母さんたち、子どもたち…）
ありがとうございました。


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
音楽「ゆる楽」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴい」 / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」
記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者 ※該当するものに○
ハイティーン会議2023報告会　コメントシート
印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。
堂々と話をしている様子が印象的でした。
「環境」と言わない環境対策という視点は、環境以外の分野でも応用可能な考え方でもあると思います。（防災、人権 など）
大人になるのが上手なこともいいなーと思っていました。

【以下抜粋】

・「面白いこと」、「楽しいこと」前面に出して、環境に対しての意識を高めていくというアプローチが素晴らしいと思った
・「環境×音楽」というエンタメ性が素晴らしかった
・環境という言葉を出さないでイベントをやって、裏で実は環境にいいことをしているというのが良い
・環境を前に出しすぎないというところがよかった
・環境というテーマに縛られず、ほかのテーマとつなげてみようという発想がよかった

学校・学年を超えて校則を考えるチーム
「Enjoy 楽しもう　はっぴぃ☺」

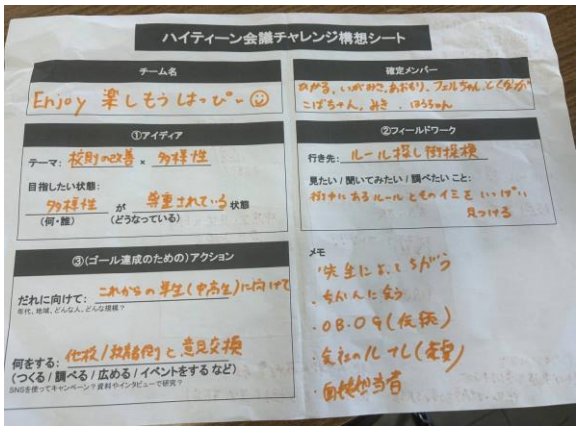
メンバー

いがみさ(高1)
あおもり(高2)
フェルちゃん(中3)
とくなが(中3)
ひかる(中3)
こばちゃん（大学生メンター）
みき（社会人サポーター）

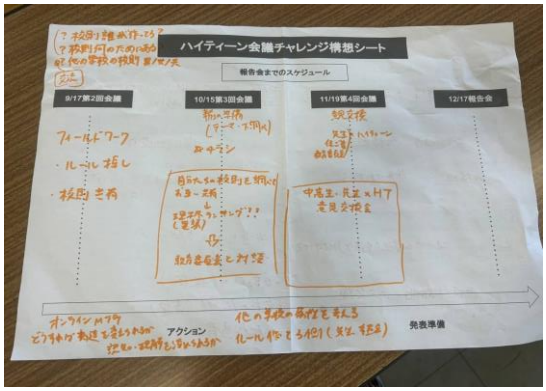
チャレンジのきっかけ

なぜ今でも厳しすぎる校則
が残っているんだろう？

校則について納得できる
説明を先生がしてくれる場
もほとんど無い…。



そんな思いを抱いたメンバーたちは、校則について中高生と先生/教育委員会との間で意見交換する場を設ければ、現状の校則を見つめなおし、改善するきっかけになると考えました。

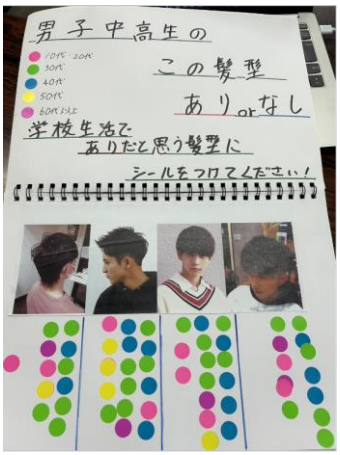


アクション内容と結果

日付	概要	具体的な活動内容
9/17	フィールドワーク	街中にある標識を見つけるなど、様々なルールを探しながら、「なぜこのようなルールが存在しているのか」について意見を交わしあいました。その後、同様に校則についても、みんなの学校にどのような校則があるか共有し、その意義について考えました。
9/26	zoom 話し合い	これまでの活動で「校則が存在しているのは社会や住民からの目や評判があるからではないか」という疑問と、「もっと校則について他校の中高生や先生と話し合う機会がほしい」という意見がでていました。そのため今後の活動について、「街頭インタビュー」と「中高生同士による意見交換会」を実施することにしました。
10/15	イベント準備	インタビューと意見交換会の準備を進めました。前者に関しては、インタビュー用のフリップ作成と何を聞くかを考え、後者については話し合う内容とタイムスケジュールの考案、集客用チラシの準備を進めました。
10/31	zoom 話し合い	作成したチラシによる集客方法の確認と、インタビュー・意見交換会の内容において、最終調整を進めました。
11/19	街頭インタビュー	中野セントラルパークで、作成したフリップをもとに「中高生の髪型として、有りか無しか」をヒアリング調査しました。
11/23	TEEN’S CAFE	中高生だけで、「校則」をテーマに意見交換を行いました。「なぜ校則があるのか」、「理想の校則とはどのようなものか」などについてお菓子を食べながら意見を交わしあうことができました。

【街頭インタビュー】

校則が決められている背景には「周りの人の目」が大きく影響しているのではないかと考えました。そこで幅広い年代を対象に、男女別で「中高生がこの髪型にした場合、アウトかセーフか」をセントラルパークでヒアリング調査をしてきました。それぞれ、前髪が目にかかっていたり、ツーブロックにしているなど、校則で規制されやすい髪形になっています。



　インタビュー結果は左の画像の通りです。

　実際にインタビューをしてみたところ、多くの方は「この髪型はありではないか」という気持ちを持っていることがわかりました。

　インタビューの実施と同時に、意見交換会(TEEN’S CAFE)のパンフレット配布をし、多くの方に快く受け取っていただきました。

【課外活動　TEEN’S CAFE】

　当初は「中高生と大人(先生や教育委員会)間での意見交換」を考えていましたが、中高生側が「自由に発言しづらくなるのではないか」という懸念もありました。

　そこでまずは、中野区在住・在学の様々な立場の中高生同士で「校則」について、話し合うことができる場を用意することになりました。当日は5人の中高生が参加。2グループに分かれて、イベントの進行から仕切りまでハイティーンメンバーで行いました。

イベントはとても盛り上がり、普段は知ることができない他校の校則の内容を共有したり、架空の学校をテーマに「理想の校則」を考えることを通して、普段抱えている「もやもや」を話し合ったりすることができました！

工夫点

【集客・広報をゼロから自力で企画！】

イベントの名前は、ポップで多くの人が参加しやすいように「中野区TEEN’S CAFE」として、お菓子を食べながらゆるく話し合えるイベントであるということを宣伝しました。

また、概要や当日の流れがわかりやすいレイアウトを心がけました。

作成したパンフレットは、中野区若者情報発信アカウント（X）で発信したほか、ハイティーン会議の他のメンバーに手渡したり、中野駅周辺で直接配布しました。

報告会での意見表明・関連課からのフィードバック

校則について、「まずは同世代での意見交換の場を作り、大人の意見も納得して受け止めたい」と考えて活動してきたこのチャレンジでは、以下のように区長に意見表明しました。

・校則について、大人に聞いても意味や存在意義について説明ができなかったり、子ども側も見直しを諦めたり、見直しする動きへの関心が低いといった課題がある。

・校則の見直しや改善について、教員と生徒が話し合う機会がないため、大人と子どもが同じ立場で校則について話し合う場が欲しい。

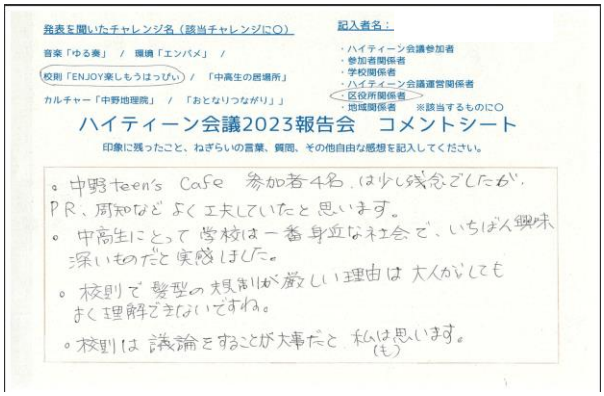
これに対し、関連課から寄せられたフィードバックは以下の通りです。

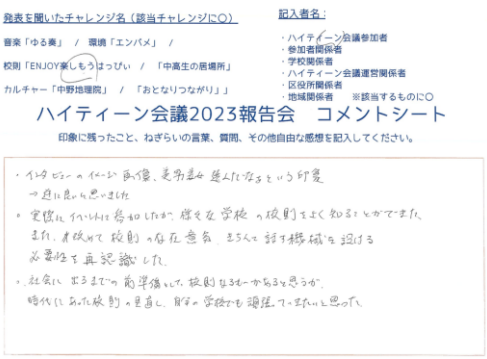
教育委員会 事務局 指導室	区立中学校については、全校で教員と生徒が話し合う機会を設け、校則等の見直しを行っています。まずは、話し合いの場ができるよう、学校の先生に提案してみてください。

いただいたコメント

「校則」について対話をする場の必要性や重要性を改めて感じたといった意見が多く寄せられました。また、インタビューを通して、周りが校則についてどのような認識を持っているかを確認したことについても多くコメントをいただきました。

【以下抜粋】


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者　※該当するものに○
音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴい」 / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」
ハイティーン会議2023報告会　コメントシート
印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。
◦中野teen's Cafe 参加者4名、は少し残念でしたが、PR、周知などよく工夫していたと思います。
◦中高生にとって学校は一番身近な社会で、いちばん興味深いものだと実感しました。
◦校則で髪型の規則が厳しい理由は大人がしてもよく理解できないですね。
◦校則は議論することが大事だと私は思います。(七)


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者　※該当するものに○
音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴい」 / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」
ハイティーン会議2023報告会　コメントシート
印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。

・校則について、自分たちの関係者だけでなく、街の声を自ら聞きに行ったのがよかった
・校則がなぜあるか→周囲の目→街頭インタビューという着眼点が良い
・学生の意識を高めるという点で、話し合えるTEEN’S CAFEははじめの一歩として、すごくよかった
・TEEN’S CAFEの「架空の学校における理想の校則を考える」というテーマが良かった
・ルールを当たり前にせず、問い直していくというプロセスが素敵でした

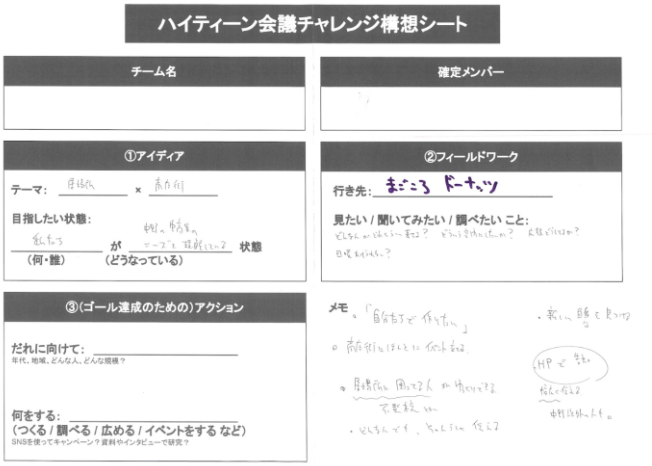
中高生の居場所づくりチーム

メンバー

たまき(高2)
エンターキー(高2)
ゆづき（高1）
ともやん(中3)
てらし(中3)
しょう（大学生メンター）
ノブ（社会人サポーター）

チャレンジのきっかけ

中野区の学校に通っているけど、放課後に友達と過ごせる場所が無い！


ハイティーン会議チャレンジ構想シート

チーム名

確定メンバー

①アイディア

テーマ：

目指したい状態：

（何・誰）　が　（どうなっている）　状態

②フィールドワーク

行き先：

見たい / 聞いてみたい / 調べたい こと：

③(ゴール達成のための)アクション

だれに向けて：

何をする：
(つくる / 調べる / 広める / イベントをする など)

メモ

「駅のホームの自販機前しか、溜まれる場所が無い…」

中野区在住・在学の中高生が集まるハイティーン会議だからこそ、「学校外の仲間と出会える居場所が欲しい」という共通の気持ちに気付き、「先行事例を調べ、まずは自分たちで作ってみよう！」と方向性を定めました。

アクションの内容と結果

9/17	フィールドワーク	中野区内で実施されている若者向けスペース「まごころドーナッツ」を見学。 職員へのインタビューも行い、居場所づくりには「オープンさとクローズさのバランス」「ターゲットをどう絞るか」などの観点が重要であると学びました。
9/26	zoom話し合い	このチャレンジでイベントをするとして、「どんな中高生に、どんな時間を過ごしてほしいか？」「そのためにはどんな会場が相応しいか？」「日程はどうする？」など、アイデアを出し合いながら概要を決めていきました。
10/15	イベント準備 文京区青少年プラザb-lab視察	会場を中野区産業振興センターに定め、メンバーそれぞれの役割分担や、イベントに必要なもののリストアップを行いました。 会議後には、任意活動として「中高生の秘密基地」として知られる文京区青少年プラザb-labを視察。先行事例を目の前で見ることができ、大いに刺激を受けました。
10/22	イベントPR動画作成	イベント実施に向け、広報用のチラシを高校生が作成！また、中野駅からイベント会場までの道のりを歩きながらイベントの概要を伝える内容の、PR動画の撮影も自主的に行いました。
11/19	イベント準備	イベント当日の進行表を完成させ、準備万端です。またイベントだけでなく、「中高生の居場所について、当事者たちはどう感じているか」を調べるためにアンケートも作成しました。
11/26	イベント当日	産業振興センターで 「集まれ！中高生の居場所」を実施しました。
12/16	報告会前日準備	発表スライド作成や、5分間で上手くプレゼンテーションする練習をしました。

【「まごころドーナッツ」見学】

　中野区内で活動している若者のサードプレイス先行事例「まごころドーナッツ」を視察し、職員の方にインタビューを行いました。
　誰でもふらっと来やすいカジュアルさと、安心安全なクローズドな空間の両立に配慮されていることをお聞きし、大変参考になりました。

【課外活動　イベント当日】

　イベントは、中野区産業振興センターの和室を2部屋、キッチンが使える調理室・創作室、スクリーンが使える会議室を昼～夜まで予約し、「半日ぶっ続け」の内容で実施しました。

　和室は自習スペースと休憩スペースを用意。参加者が何時間でもリラックスして過ごせるよう設計しました。ボードゲームやお菓子、飲み物も用意したことが大好評でした。

　調理室・創作室では、メンバーが講師となった「クッキーづくり体験」。
勉強目的で来ていた参加者たちも、息抜きがてら参加してくれて、大盛り上がりとなりました！

　メンバーたちは「参加者が集まるかどうか…」と不安がっていましたが、合計14人の中高生が参加してくれて、大盛況に終わりました。

参加した中高生からは、

・クッキー作りが楽しかった。
・ガヤガヤしてる雰囲気はやっぱり良い。
・おもしろすぎてスマホを気にする暇がなかった。
・今月で1番おもしろい日だった。
・みんなで遊ぶの最高だった。

などの感想が寄せられました！

工夫点

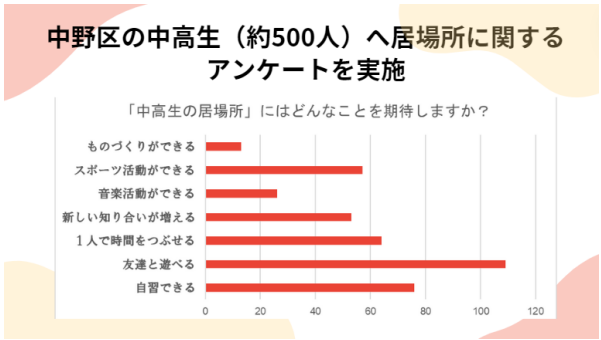
「すべてを中高生自身で企画する！」

中高生のための居場所だからこそ、当事者である自分たちの力でイベントを作り上げることを意識しました。

どんなコンテンツを用意すれば中高生は来たくなるかをみんなで考え、チラシやPR動画も自らの手で完成させました！

報告会での意見表明・関連課からのフィードバック

「中高生の居場所を、中高生自身が作る」ことを目指したこのチャレンジでは、居場所に関するアンケートも「482人」の中高生から回答を集め、改めて「中高生が求めている居場所の在り方」を検討。



自分たちのイベント経験とアンケート結果を踏まえ、以下のように区長に意見表明しました。

・児童館は幼児や小学生の居場所というイメージが強く、区には、中高生が学校帰りに寄り道できたり、気軽に集まることができる居場所がないと感じている。

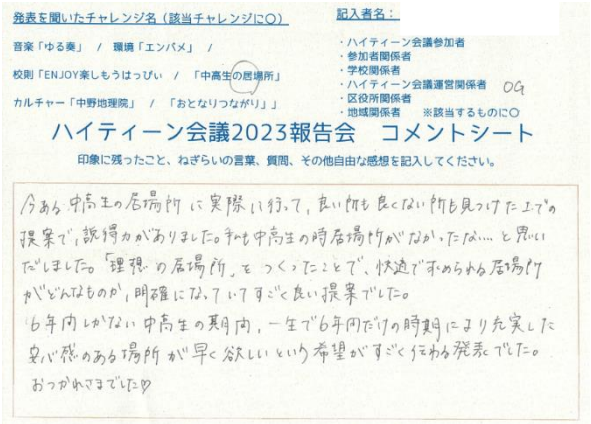
・「中野区児童館運営・整備推進計画」では、「中高生機能強化型児童館」の大幅な改修もしくは建替を検討・推進するのが2025～2028年とされている。現在の計画では自分たちが利用できないため、前倒しで検討・開館して欲しい。

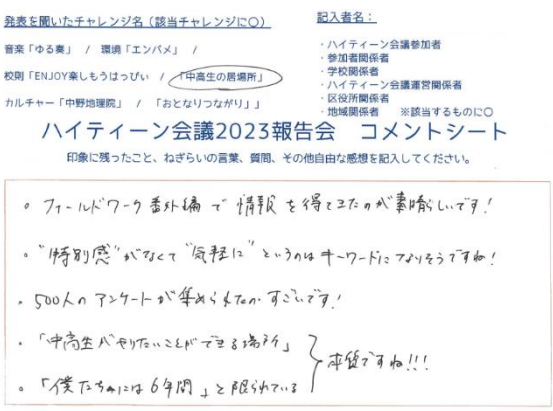
これに対し、関連課から寄せられたフィードバックは以下の通りです。

子ども教育部 育成活動推進課	区は、区有施設を活用した「居場所」づくりにも取り組んでいく方針です。また区立図書館や児童館において「学習スペース」を設置しています。 「中高生機能強化型児童館」の整備については、表明された意見の他、利用の当事者となる対象年齢層の方々及び区民の声等を取り入れながら検討します。また、本日の提案のような「中高生の居場所事業」の定期的な実施について検討します。

いただいたコメント

アンケート、他自治体事例の視察、イベント開催と複数の手段で調査・実践を進め、説得力のある意見表明に仕上げた点にコメントが集まりました。


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴい」 / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」
記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者 ※該当するものに○
ハイティーン会議2023報告会　コメントシート
印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。
今ある中高生の居場所に実際に行って、良い点も良くない点も見つけたエピの提案で、説得力がありました。私も中高生の時居場所がなかったな…と思いだしました。「理想の居場所」をつくることで、快適ですめられる居場所がどんなものが、明確になっていてすごく良い提案でした。
6年間しかない中高生の期間、一生で6年間だけの時間により充実した安心感のある場所が早く欲しいという希望がすごく伝わる発表でした。
おつかれさまでした♡


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴい」 / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」
記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者 ※該当するものに○
ハイティーン会議2023報告会　コメントシート
印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。
・フィールドワーク番外編で情報を得ようとしたのが素晴らしいです！
・"特別感"がなくて"気軽に"というのはキーワードになりそうですね！
・500人のアンケートが集められたのすごいです！
・「中高生がやりたいことができる場所」
・「僕たちには6年間」と限られている
本質ですね!!!

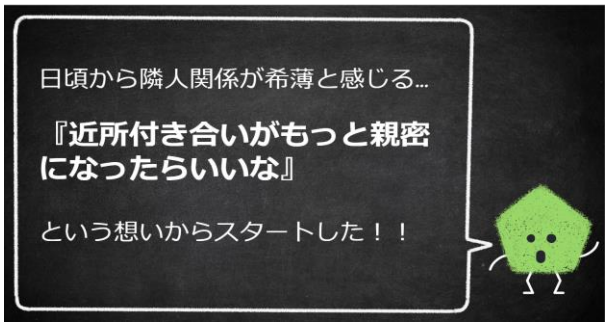
- 「自分が利用できないので、早急に作ってくれないと困る」という自らの言葉をぶつけてくれたのがとても良かったです
- 区内外の事例から問題点を洗い出し、解決に繋げるロジックが明確で◎
- （中高生でいられる）限りある6年の重みが伝わり、また、イベントを実施して当事者から声を集めたのがよかった

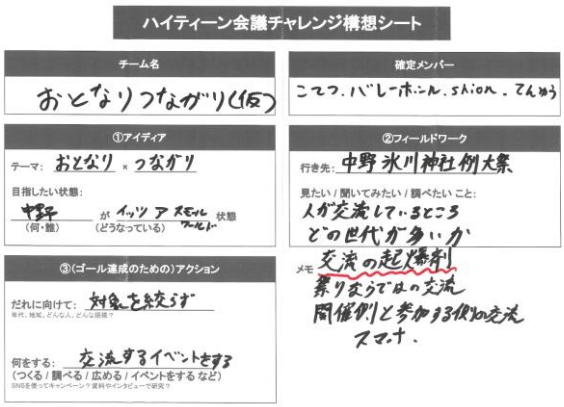
地域の関係づくり「おとなりつながり」

メンバー

こてつ（高3）
バレーボール（高2）
ありい（中3）
ひき肉（中3）
てんゆう（社会人メンター）

チャレンジのきっかけ





日頃からご近所、隣人との関わりが少ないと感じており、「近所付き合いを、もっと身近で親密なものにしたい！」という思いからスタートしました！

地域の人と気軽につながることができるイベントを開催することで、多世代にわたる交流ができるのではないかと考えました。

アクションの内容と結果

9/17	フィールドワーク	中野氷川神社例大祭に足を運びました。実際にどのような人々が交流をしているのか、その世代などについて直接確認することができました。
10/2	zoom話し合い	どのようなイベントを実施していくかの大枠を話し合い、ボードゲームを用いることで、楽しく交流できるようなイベントを開くことになりました。さらに、実際にイベントを企画するにあたって地域に根付いた活動をしている方へインタビューを行うことにしました。
10/8	地域取材	東中野五丁目小滝町会の仙石様にインタビューを行いました。小滝町会の特徴や、仙石様の経歴、過去の地域イベントの実施方法などをお聞きすることができました。
10/15	イベント準備	イベントを実施するにあたって、会場や日時、定員などの詳細を決めました。また、イベントの名前決定や集客用パンフレットの作成も同時に進めていきました。
10/29	zoom話し合い	パンフレットを仕上げ、当日使用するカードゲームを決めました。また、今後必要になる備品やアンケートなどの準備を進めました。
11/19	イベント準備	イベントに必要な備品や持ち物の確認をしました。
11/26	THE CARD GAME in NAKANO	いろいろな人と交流することを目的として、誰でも参加可能かつ入退場自由なイベントを実施しました。当日はカードゲームを通して、様々な参加者と交流することができ、とても盛り上がりました。

【フィールドワーク　仙石様インタビュー】

東中野五丁目小滝町会の仙石達也様と直接お話をさせていただきました！

小滝町会の特徴や、これまでに実施した地域イベントについても詳しく教えてくださり、宣伝の方法や対象のターゲット層などイベントを実施するにあたって大切なことを学ぶことができました。

当日は、小滝町会の地域活動の運営ボランティアをしている「りつ（高校2年）」も一緒にインタビューに参加してくれました！そして、ハイティーン会議のメンバーとしても活動してくれることになり、また1人「おとなりつながり」のメンバーが増えました！

【課外活動　THE CARD GAME in NAKANO】

「コミュニティスペースおむすび」で、カードゲームをテーマとした多世代交流イベントを実施しました。

7種類のカードゲームやお菓子を用意し、気軽に立ち寄って楽しむことができる、居心地のよい場所作りをしました。この日は小学生5人・保護者2人・中学生2人、計9人の参加者に来ていただきました！スペース内は人でいっぱいになり、カードゲームを通して多くの方とお話をすることができました。

工夫点

「あらゆる立場の人が交流できるようなイベント作りを！」

　仙石様へのインタビューで、「オープンな場所を作ることは、参加者に居心地が良いと感じてもらうために大切だ」と学びました。

　そこで、イベントの会場を開放的なスペースにしたり、気軽に参加できるような準備をしました。このようにゆるいイベントにしたことで、参加するハードルも下がり、初対面でも交流しやすい場を作ることができました。

報告会での意見表明・関連課からのフィードバック

　地域の色々な人に参加してもらえる「ゆるい」イベントを企画し、成功させたこのチャレンジでは、以下のように区長に意見表明しました。

・日頃から隣人関係が希薄であると感じている。地域の人が交流できるように、気軽に参加できる「ゆるい」イベントを実施してもよいのではないか。
・個人でも、今よりも気軽にイベントの企画や実行ができるようなサポート体制を作るべきではないか。

　これに対し、関連課から寄せられたフィードバックは以下の通りです。

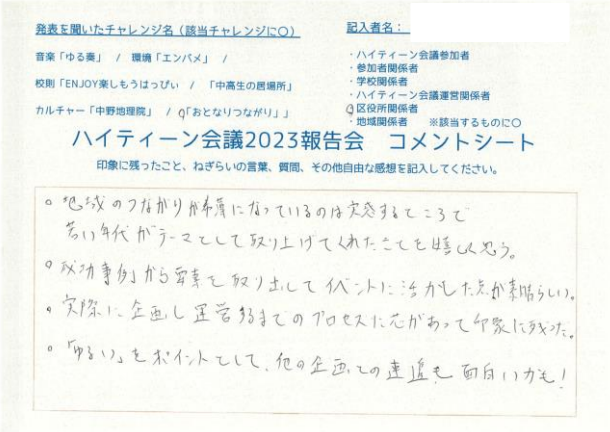
地域支えあい推進部 地域活動推進課	気軽に参加できる「ゆるい」イベントは、ざまざまな地域で、既に住民の方々が主体となり数多く開催されています。（「ためまっぷなかの」や区内に１５か所ある区民活動センターを通じ、是非参加してみてください。） （「ためまっぷなかの」：地域の施設等で開催する地域イベントを簡単にスマホ等を通して伝えられ、受け取れるＷＥＢアプリケーションです。イメージとしては、まちにある掲示板を電子化したシステムです。）

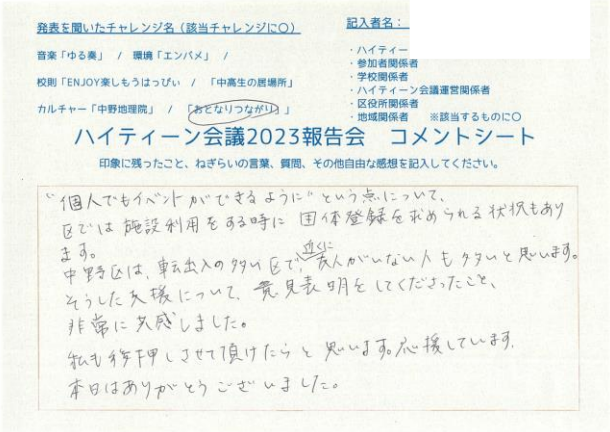
	個々の思いを、地域の多種多様な方々と一緒に共有し、グループで企画・実施していくイベントの方が、地域住民にとって有益で、長続きするイベントになると考えています。ぜひ「ためまっぷなかのネットワーク」を参考にしてみてください。 （「ためまっぷなかのネットワーク」：区民を対象とする公益活動団体や地域のつながりを支援するため、地域イベントに参加したい人、地域イベントをしている人・これからしてみたい人、地域イベントを手伝いたい人・支援したい人、を結びつけ、地域の輪を広げることを目的としているサイトです。）

いただいたコメント

「ゆるい」というキーワードに着目したコメントが多く見られました。また、地域の人々との交流を持つうえで、ゆるさというのは交流する敷居を下げるポイントであると感じている方もいました。

【以下抜粋】


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴい」 / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」
記入者名：
・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者 ※該当するものに○
ハイティーン会議2023報告会 コメントシート
印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。
・地域のつながりが希薄になっているのは実感するところで
若い年代がテーマとして取り上げてくれたことも嬉しく思う。
・成功事例から答案を取り出して イベントに活かした点が素晴らしい。
・実際に企画し 実行するまでのプロセスに 心があって印象に残った。
・「ゆるい」をポイントとして、他の企画との連携も面白いかも！


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）
音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /
校則「ENJOY楽しもうはっぴい」 / 「中高生の居場所」
カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」
記入者名：
・ハイティー
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者 ※該当するものに○
ハイティーン会議2023報告会 コメントシート
印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。
"個人でもイベントができるように"という点について、
区では施設利用をする時に団体登録を求められる状況もあります。
中野区は、転入出の多い区で、近隣に友人がいない人もタクサンと思います。
そうした支援について、意見表明をしてくださったこと、
非常に共感しました。
私も後押しさせて頂けたらと思います。応援しています。
本日はありがとうございました。

- 地域で成功した人からアドバイスを聞く過程が素晴らしいと思った
- イベントを開催しようと考えている人を区がサポートしようとする仕組みは参考になります
- カードゲームなどで身近な話しやすさは、参加しやすくなることで続けていけるイベントになると良いと思った
- 「ゆるい」というのが交流を生むために大切だと思った
- 地域交流イベントが各々の地域課題の解決につながると思う

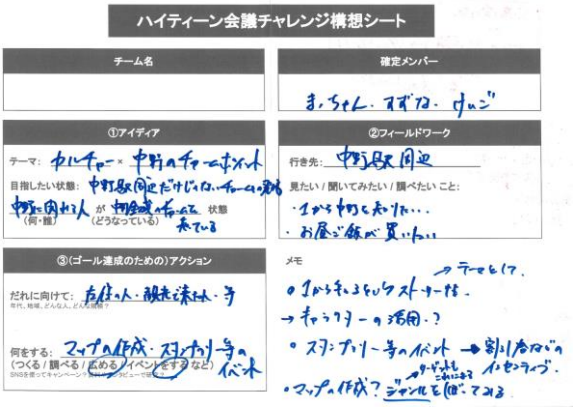
地域の魅力発信チーム「中野地理院」

メンバー

すずな(高1)
けいご(高1)
まっちゃん(中3)
ドラゴン（大学生メンター）
だいき（社会人サポーター）

チャレンジのきっかけ

中野駅周辺は賑わっているけど、区の北側や南側は、あまり注目されていない。中野区の北部や南部にも魅力がたくさんあるはず！

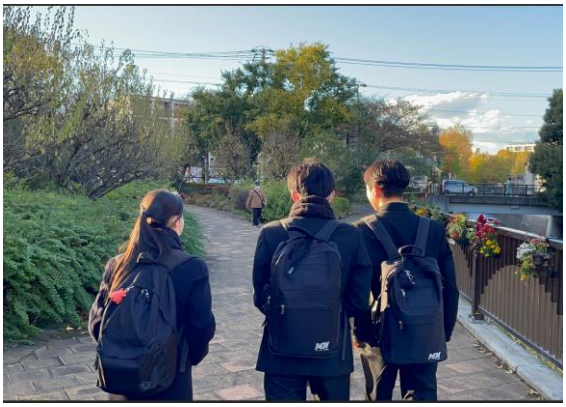


中野駅周辺エリア以外の地域の魅力発信について話し合う中で、「10代の目線で面白いと感じた場所をまとめた地図を作ろう」と方向性が決定しました！

アクション内容と結果

9/17	フィールドワーク	中野駅周辺のにぎわいエリアを実際に歩いてみました。会議に戻り、自分たちが普段過ごしている区内のエリアと比較し、盛り上がりに差があることを改めて感じました。
10/6	zoom話し合い	今後のチャレンジ活動の方向性について話し合いました。そこで「地図も載せた、中野の魅力を発信するマップのようなものを作成する」という結論に至りました。マップ作成に先駆け、まずは各々で中野区の魅力を探し、面白そうな場所や実際に街歩きして見つけたものを共有しあいました。
10/15	観光協会理事長ヒアリング	中野観光協会の理事長に足を運んでいただき、「どのようにしてマップを作るとよいか」、「どのようなマップにすると見やすいか」など実際に作成するにあたっての注意点やコツをお聞きすることができました。
11/7	zoom話し合い	マップを作成するにあたって、チャレンジ名を「中野地理院」に決定しました。マップは食べ物・美術館や博物館・景色や風景という3つのカテゴリを中心に魅力を発信することにしました。
11/14	zoom話し合い	マップに載せたい魅力的な場所を各々リサーチして、マップに載せる内容の大枠を決めました。
11/18	地域取材	zoomでの話し合いで、事前にピックアップしていた箇所を直接訪れました。哲学堂公園や中野区立歴史民俗資料館などを訪問し、町の雰囲気や魅力を肌で感じることができる良い機会となりました。
11/19	マップ作成	これまでに行ってきた下調べやフィールドワークをもとに、中野区の魅力を発信するためのマップ作りにとりかかりました。
11/24	zoom話し合い	マップ作成の完成に向けて、作成の手順や使用する写真を確認しました。また、12月の提言に向けたスライドの準備も同時に始めました。
11/28	zoom話し合い	引き続き、マップ作成を進めました。マップに入れる説明文やレイアウトの確認をしました。

【地域取材】



　マップ作成に先駆けて、哲学堂公園や沼袋氷川神社、中野歴史民俗資料館などを訪れました。実際に街歩きをすることで、中野の街の雰囲気を直で感じることができ、新たな気づきも多くありました。

【マップ作成】

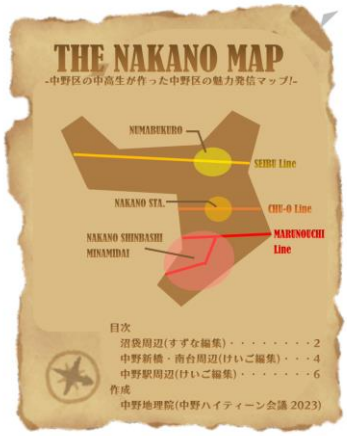
　中野区観光協会理事長から直接お話いただく機会をいただき、マップを作るうえでのポイントや注意点など細かくアドバイスをいただきました。

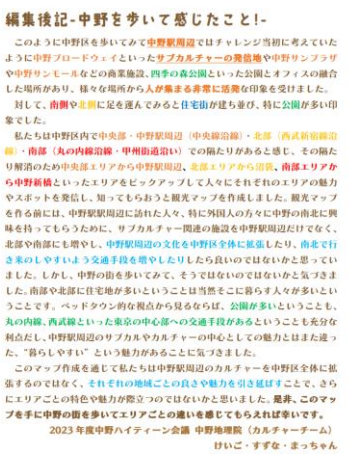
　カテゴリ別に色分けをしたり、見やすいようなレイアウトに整えたりと、創意工夫を凝らしました。

工夫点

「マップを通して、エリアごとの魅力を発信！」

　中野駅周辺はサブカルや文化の中心地としての魅力がある一方、北部や南部にも暮らしやすく子育てしやすいという特徴があることに気づきました。





報告会での意見表明・関連課からのフィードバック

中野区を自らの足で調査・取材し、各エリアの特徴を考えたこのチャレンジでは、以下のように区長に意見表明しました。

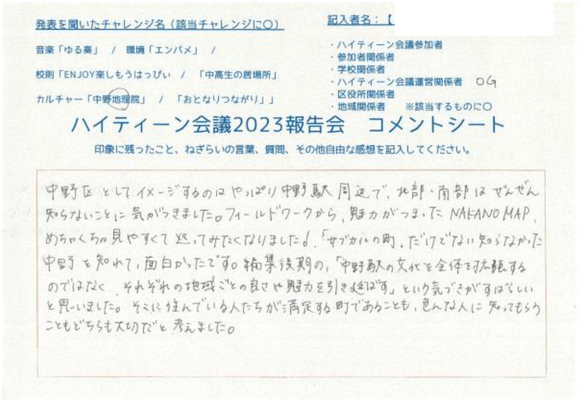
- 中野駅周辺が注目されがちだが、北部や南部エリアにも良さがあるはず。その魅力が区民に伝わっていないように感じた。フィールドワークをしたところ、エリアごとに違った雰囲気や魅力、良さがあったため、それぞれのエリアに合った方法で、平等に魅力発信をして欲しい。
- 「中野駅周辺」＝「サブカルチャーや芸術・文化の中心地」として広報。例えば、クリエイター等が個展を開けるようなスペースを設置して発信できるようにする
- 「北部・南部エリア」＝「暮らしやすい子育てしやすい街」として広報。例えば、渋谷区の「THE TOKYO TOILET」のように、公園や公共施設にアートや文化の要素も加える。

これに対し、関連課から寄せられたフィードバックは以下の通りです。

区民部 文化振興・多文化共生推進課 シティプロモーション係	「中野大好きナカノさん」プロジェクトや、中野区公式観光サイト「まるっと中野」に掲載している、区内在住・在勤・在学のレポーターが制作した記事を通じ、中野駅周辺に限らず北部・南部エリアとも魅力を発信しています。今後も、引き続き北部・南部エリアの魅力を発信していきます。 中野区新庁舎においては、情報発信スペースを整備し、区民等による表現の場として活用する予定です。整備後、中野駅周辺が芸術・文化の発信地であることを広報します。 また、区民が身近で触れられる文化・芸術をまちに広げる「中野ミューラルプロジェクト」を2021年度より実施しており、鷺宮小体育館（北部）、鍋横区民活動センター・カフェ カサデオリーバ（南部）においてミューラル（壁画）を制作しました。引き続き、北部・南部地域が暮らしやすいまちであるという特徴を踏まえつつ、文化・芸術にも親しめる地域であることを発信していきます。

いただいたコメント

駅周辺だけではなく、中野区の北部と南部にも注目したことに、多くコメントが寄せられていました。また実際にフィールドワークを行ったうえで、地図にまとめている点にも注目が集まっていました。


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）

音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /

校則「ENJOY楽しもうはっぴぃ / 「中高生の居場所」

カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」

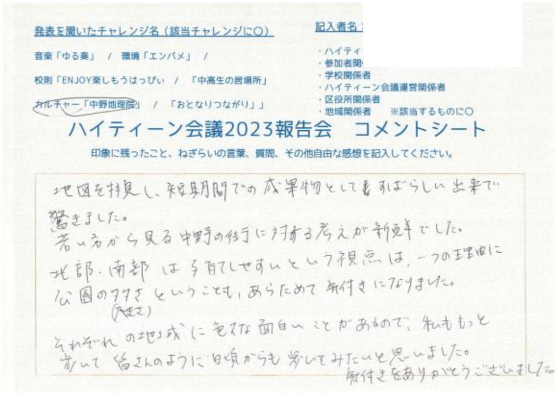
記入者名：【

・ハイティーン会議参加者
・参加者関係者
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者　OG
・区役所関係者
・地域関係者　※該当するものに○

ハイティーン会議2023報告会　コメントシート

印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。

中野区としてイメージするのはやっぱり中野駅周辺で、北部・南部はぜんぜん知らないことに気がつきました。フィールドワークから、魅力がつまったNAKANO MAP、めちゃくちゃ見やすくて巡ってみたくなりました♪「サブカルの町」だけでない知らなかった中野を知れて、面白かったです。編集後期の、「中野駅の文化を全体を拡張するのではなく、それぞれの地域ごとの良さや魅力を引き延ばす」という気づきがすばらしいと思いました。そこに住んでいる人たちが満足する町であることも、色んな人に知ってもらうこともどちらも大切だと考えました。


発表を聞いたチャレンジ名（該当チャレンジに○）

音楽「ゆる奏」 / 環境「エンパメ」 /

校則「ENJOY楽しもうはっぴぃ / 「中高生の居場所」

カルチャー「中野地理院」 / 「おとなりつながり」」

記入者名：

・ハイティ
・参加者関
・学校関係者
・ハイティーン会議運営関係者
・区役所関係者
・地域関係者　※該当するものに○

ハイティーン会議2023報告会　コメントシート

印象に残ったこと、ねぎらいの言葉、質問、その他自由な感想を記入してください。

地図を拝見し、短期間での成果物としてもすばらしい出来で驚きました。
若い方から見る中野の街に対する考えが新鮮でした。
北部・南部は子育てしやすいという視点は、一つの理由に公園のタタさ（大きさ）ということも、あらためて気付きになりました。
それぞれの地域に色々な面白いことがあるので、私ももっと歩いて皆さんのように日頃からも歩いてみたいと思いました。
気付きをありがとうございました。

- 「暮らしやすい、子育てしやすいまち」として、北部・南部の魅力を活かした町づくりを提言していてよかった
- フィールドワークを通して、魅力を発見していった点がよかった
- マップのデザインやレイアウトに配慮や工夫が詰め込まれていると思った
- 区内の地域による課題にもフォーカスしていてすごいと思った
- 自分たちの住んでいる町を改めて考えるきっかけになった

寄せられた感想

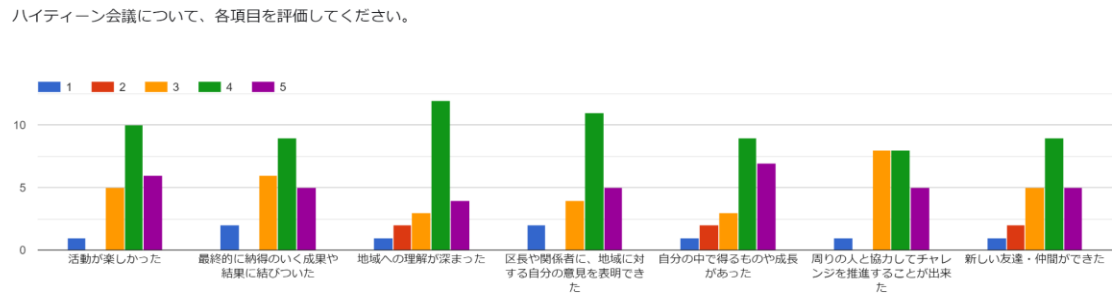
プログラムを終え、参加した中高生たちはワークシートを活用した振り返りや、プログラム全体に対するアンケートに臨みました。

ここでは、寄せられた回答をもとに、2023年度のハイティーン会議に対する感想や評価を紹介します。

参加者アンケート

ハイティーン会議全体に対する平均満足度：8.71/10

「学校では出会えない仲間と共に、地域でチャレンジできた」という経験に多くの肯定的意見が集まりました。



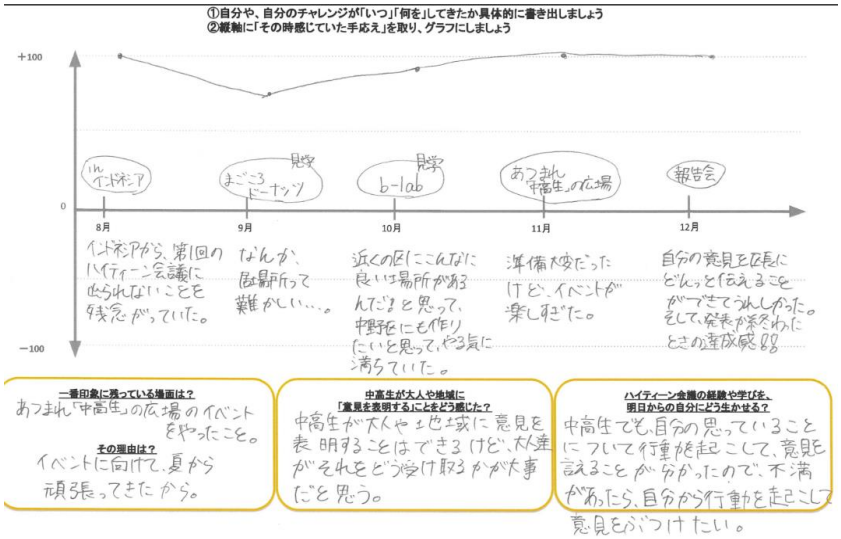
- 多くの人と関わることができた！
- とても楽しかったし充実していたが、自分はもっと出来るはずだと思った
- 全員が本気で中野をより良くしていきたいという思いを持っていて、感動した。
- 自分が普段絶対やらないことの後押しをしてくれた。
- 普通に人生を歩んでいたら出来ないようなことが多かった。他の人との交流が楽しかった。
- 今までになく、とても貴重な経験であったから。
- 最初はモチベーションがそんなになかったけど、やっていくにつれて楽しくなっていった。
- 区長に提言できた。
- 自分を高められると共に、中野の魅力にたくさん触れられたと思う。
- アンバサダーなどもやったりしてとてもやりたいことができた。
- 今までやったことがなかったことが経験できたから。自分たちの考えを伝えることができたから。色々な経験をして楽しかったから。地域と関わることができた。
- たくさんの人と関われて面白い

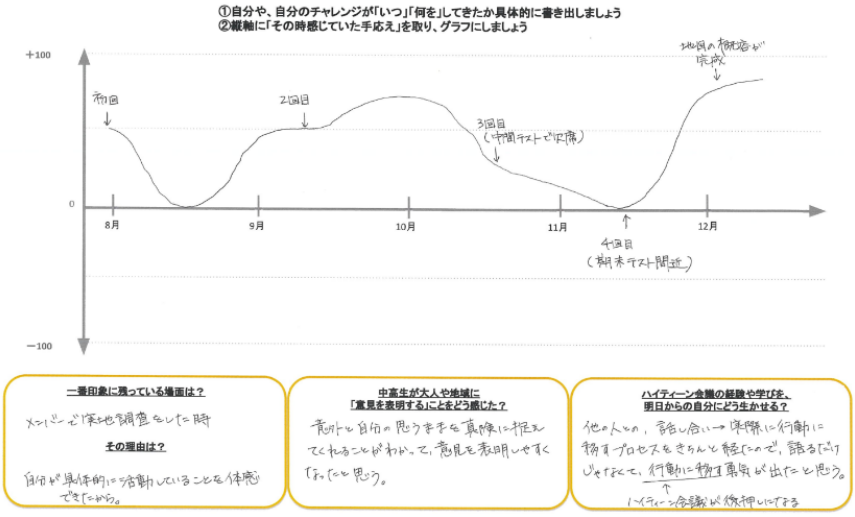
一方で、活動スケジュールについては不満の声も寄せられました。多忙であり、通信環境も人それぞれな中高生向け事業だからこそ、より参加しやすい形での運営に向けて改善してまいります。

- 交流できて楽しかったけれど、夜のオンライン（ミーティング）が多くてスマホやパソコンなどを持ってないと少し不便。
- 部活動の予定で参加できない日が多かった。
- 基本的に楽しいが、グループを超えての交流はあまり多くない気がする。

参加者ワークシート

中高生たちは区長への報告会を終えた後、8月から12月までの活動全体を自分なりに振り返り、学びや気付きを言葉にしました。





学校などで多忙な中、仲間とともに走り抜けた数か月に対して、
「（自分たちの意見を大人が）意外と真剣に捉えてくれる」
「語るだけでなく、行動に移す勇気が出た」
など、多くの学びを得てくれました。

観覧者アンケート

12月の報告会には、区長、教育長だけでなく、区議会議員、参加者のご家族、学校の先生方、区役所関係者、地域関係者など多くの方が観覧にいらっしゃいました。観覧の皆様からいただいたアンケート内容の一部をご紹介いたします。

所属	報告会をご覧いただいたご感想をぜひお聞かせください。	ハイティーンたちに一言、メッセージをお願いいたします。
参加者のご家族	子どもたちの発表に区役所の方々から真摯に答えていただき、感銘を受けました。	チャレンジを続けていってほしいと思います。
参加者のご家族	子どもが連続して参加させて頂いておりますが、年を追う毎に内容が成熟しているように感じます。今後の中野区の発展に期待しています。	発表お疲れさまでした。貴重な経験を今後の活動に生かしていって欲しいと思います。
チャレンジに協力いただいた関係者	参加させて頂きありがとうございました。	引き続き何なりとご相談下さい。 動きます。
区役所関係者	気付かされることがたくさんありました。	たくさんご準備されたことと思います。 お疲れ様でした！
区役所関係者	各発表、とても素晴らしく感動しました。	今回の経験をぜひ、周りのお友達に伝えて行っていただければと思いました。
区役所関係者	限られた期間の中で、良くまとめて発表していたと思います。	どのグループもそれぞれの視点があって良かったと思います。良かった点や反省点を生かして次のチャレンジにつなげていくことが大事なので、これからも期待しています。
区役所関係者	いずれのチャレンジもハイティーンたちにとって切実な問題で、その分強い思いが込められた発表となっており、こちらも身の引き締まる思いで聞いていました。3時間、あっという間でした。	チャレンジしようとする姿勢もさることながら、チャレンジを具体的なイベントなどに落とし込み、そこから得られたフィードバックを元に、提言としてまとめたことは本当に素晴らしいことだと思います。熱意を保ち続けられたからこそ、報告会での発表がとても良いものになったのだと感じました。 お疲れ様でした。

OG	今年の報告会では、各チームが最初に感じたこと→調査→アクション→考え の流れがどこの班もしっかりとあり、主張がすごくわかりやすいと思いました！	直前まで準備しているところを見ていたのに、本番の底力が凄くて中高生のエネルギーを感じました！中高生の立場だから言える言葉が沢山聞けて面白かったです！お疲れ様でした！
OB	各チャレンジの人数が少なく、参加者の当事者意識が高かったため発表もクオリティの高いものとなっていました。	中高生がこうして主体的に活動するというのはなかなかない機会であり、しかしやっている当時はその活動の重要性に気づかないものでもあります。ぜひ、ハイティーンの皆さんには、ここでの活動を通して考え方や視野を広げ、社会を変えていく原動力となってほしいです。
次世代育成委員	毎年、楽しみにしています。中高生の視点で見た中野の課題はとても身近で、私達にも取組めそうなこともたくさんありました。色々な世代の声を聞く機会を逃さないようにしたいと改めて思いました。 有難うございました。	中高生らしい素直な意見が聞けて楽しかったです。 小さな疑問から課題を見つけ、実践につなげるという経験はとても貴重です。これからも楽しく有意義な時間を過ごしてください！有難うございました。
次世代育成委員	中高生ならではの視点でのPDCA＋提言。 とても楽しく拝聴しました。 有意義な時間でした。	お疲れ様でした。これからも「なぜ」を大切にしてください。
子どもの権利委員会	生き生きと意見表明をする若者の姿は、大人を元気にするな、と感じました。 実際に活動して感じた意見はどれも実感がこもっていました。 以前より公園の使いにくさや、中高生の居場所、校則について課題があると感じていましたが、当事者の意見ほど力強いものはない、と実感しました。意見が次に繋がることを切に願っています。	お疲れ様でした！皆さんの気づきに、私も気付かされることが多々ありました。 引き続き、同じ中野に縁のある者同士、中野という場所を活用して、人生を生活を、充実させましょう～！
区議会議員	半年間準備された成果が伝わってくる素晴らしいプレゼンでした。届けられた声が中野区でどのように活かされていくのか楽しみです。	課題を見つけ、企画を考え、実行し、公の場で発表した経験は、大変貴重なものになったと思います。今後も培ったノウハウやスキル、そして何より自分で考える力をぜひ大切にしてください！

観覧にお越しいただいた皆様、ありがとうございました！

中野区は、 中高生の皆さんの「チャレンジ・アクション」を応援します。

皆さんがハイティーン会議を通して得た考えや気づきを
次のステップにつなげられるよう、
毎年度工夫をしながら事業を進めていきます。
今後とも、みなさんのご参加をお待ちしています！

（発行）中野区子ども教育部育成活動推進課
認定NPO法人カタリバ
（TEL）03-3228-5648
（MAIL）kenzenikusei@city.tokyo-nakano.lg.jp